大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F101210100143	設置等組織名	地域創造学部地域創造学科
大学名	旭川市立大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	北海道	事業計画名	旭川市立大学学部新設事業

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	1-①令和５年５月 人材ニーズを把握し学びに反映させるための企業や関係団体等との協議（～１２月） 1-⑦令和５年５月 新学部の校舎整備関係業務(～R8.3月) 2前-①令和５年８月 新学部校舎基本設計、地質調査、測量 （～R6.８月） 1-③令和５年９月 （一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアム連携校との単位互換、共同授業の検討(継続中) 1-②令和５年９月 新学部の施設、教育課程検討のための視察（～１２月） 1-④令和５年10月 新学部設置認可申請関係業務(１年目/3年契約、R5.10月～R8.3月) 1-⑤令和５年10月 新学部教員校舎図書等整備実施計画策定(１年目/3年契約、R5.10月～R8.3月) 2前-②令和６年２月 新学部校舎実施設計（～８月） 1-⑥令和６年１月 新学部教員確保の取組、シラバス等の検討（～１２月）	1-① 令和５年５月 人材ニーズを把握し学びに反映させるための企業や関係団体等との協議（継続中） 1-⑦令和５年５月 新学部の校舎整備関係業務(～R8.3月) 2前-①令和５年８月 新学部校舎基本設計、地質調査、測量 （～R6.８月） 1-③ 令和５年９月 (一社)旭川ウェルビーイング・コンソーシアム連携校との単位互換、共同授業の検討(継続中) 1-② 令和５年９月 新学部の施設、学びのための視察（継続中） 1-④ 令和５年10月 新学部設置認可申請関係業務契約締結 1-⑤ 令和５年10月 新学部教員校舎図書等整備実施計画策定業務契約締結 2前-②令和６年２月 新学部校舎実施設計（～８月） 1-⑥ 令和６年３月 新学部教員確保の取組(R6.3月～R6.12月)、シラバス等の検討（R6.3月～継続）	令和5年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	1-⑧令和６年４月 新学部広報の方針検討開始 2前-③令和６年５月 建築許認可申請（～１０月） 1-⑨令和６年６月 新学部広報・HP制作委託契約締結（1年目/２年目） 1-⑩令和６年７月 新学部設置のためのニーズ調査実施（～１０月） 1-⑪令和６年１２月 新学部教員校舎図書等整備実施計画策定 2-②令和６年９月 建築許認可申請(R6.9月～12月) 2前-④令和７年１月 建築工事開始（～R８．１月）	1-⑧令和７年３月 新学部広報の方針検討開始 2前-③令和６年５月 建築許認可申請（～１０月） 1-⑨ 新学部広報・HP制作は次年度に先延ばし 1-⑩令和６年７月 新学部設置のためのニーズ調査実施（～R7.2月） 1-⑪令和７年３月 新学部教員校舎図書等整備実施計画策定 2-②令和６年９月 建築許認可申請(R6.9月～12月) 2前-④令和７年１月 建築工事開始（～R８．１月）	令和6年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	1-⑫令和７年４月 新学部広報・HP制作（R7.4月～） 1-⑬令和７年４月 新学部広報展開（HP、パンフレット、広告等） （R7.4月～） 1-⑭令和７年４月 新学部入試広報、相談会開始（R7.4月 ～） 1-⑮令和７年４月 認可申請に係る補正対応等（R7．4月～R7．６月） 2-④令和７年４月 備品購入（R7.4月～R8.2月） 2-⑤令和７年４月 備品搬入、移転（R8.2月～R8.3月）	1-⑫令和７年４月 新学部広報・HP制作検討開始 1-⑬令和７年８月 新学部広報展開（HP、パンフレット、広告等） 1-⑭令和７年４月 新学部入試広報、相談会開始 1-⑮令和７年４月 認可申請に係る補正対応等（～R7．６月） 2-④令和７年４月 備品購入に係る検討、購入（～R8.2月） 2-⑤令和８年２月 備品搬入、移転（R8.2月～R8.3月）	令和7年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	2-⑥令和８年４月 新校舎供用開始 2-⑦令和８年４月 新校舎設備整備（～R8.3月） 3-①令和８年４月 新学部入試広報、進学相談会実施（以降毎年度 ） 3-②令和８年６月 コモンズベースオープン（R8.6月以降常時運用） 3-③令和８年６月 新学部設置記念シンポジウム開催 3-④令和８年８月 ものづくり教室開始（小学校、中学校、高等学校の児童生徒対象）（以降毎年度） 3-⑤令和８年４月 産学連携会議により地域との連携を深め、その取組を活かした新学部の学びを地域に還元するための出張講義開始（産学連携会議はR8以降毎年度、出張講義はR9.4月以降毎年度） 3-⑥令和８年４月 シンポジウム開催（関連テーマの基調講演と新学部の学びの発表等）（R9.6月以降毎年度） 3-⑦令和８年４月 新学部の学びを知ってもらうための出前講座開始（道内高等学校の生徒を対象に教員と学生がプレゼン等）（R9.8月以降毎年度）		令和8年度自己評価 リストから選択してください。
令和9年度	3-⑤令和９年４月 産学連携会議により地域との連携を深め、その取組を活かした新学部の学びを地域に還元するための出張講義開始（産学連携会議はR8以降毎年度、出張講義はR9.4月以降毎年度） 3-⑥令和９年６月 シンポジウム開催（関連テーマの基調講演と新学部の学びの発表等）（以降毎年度） 3-⑦令和９年８月 新学部の学びを知ってもらうための出前講座開始（道内高等学校の生徒を対象に教員と学生がプレゼン等）（以降毎年度）		令和9年度自己評価 リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価 リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価 リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価 リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価 リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価 リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和７年３月 地域創造学部地域創造学科 設置認可申請予定	令和７年３月 地域創造学部地域創造学科 設置認可申請	
定員減又は 学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	旭川市立大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ）「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑭の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件※について	現在の状況
※文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通した教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目としては、旭川商工会議所と（一社）北海道中小企業家同友会等の会員企業と連携し、各社の課題や新規事業をテーマとしたPBL型授業を複数開講する。また、旭川市と近隣町の自治体職員を講師として、地域の課題、将来展望などに関して、双方向型やPBL型の授業を開講する。卒業研究では、企業や自治体と協働して、各研究室（20研究室）で５名程度チームをつくり、企業や地域の潜在的な課題やニーズを発見し（共感）、問題定義し、データに基づく解析と解決策の提示、プロトタイプの作成、テストを何度か繰り返し、課題を解決するといったデザイン思考を実践する取り組みを行う。プロトタイプの作成は、新学部に設置予定のファブラボを使用するが、設備が不足する場合は旭川市工芸センター、旭川市工業技術センター等の協力をいただくように打ち合わせ済みである。また、他大学等と取り組みとしては、（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの参画校である旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川工業高等専門学校とともに、アントレプレナーシップや数理・データサイエンス・AIに関する科目に関し、遠隔授業、共同授業、単位互換などを具体的に実施するための検討を進めている。	・企業や自治体と連携した科目の設定に向けて、旭川商工会議所、（一社）北海道中小企業家同友会のほか、木工センター（家具業界の組合）、（一社）中小企業診断協会北海道と協議を進めるとともに、更なる連携先の拡充等を見据え、新校舎のコモンズスペースに地域連携研究センター・連携推進局を配置した。 ・自治体との連携としては、旭川市及び近隣８町とそれぞれ包括連携協定を締結したほか、上川町村会との連携協定を締結した。 ・こうした連携を生かし、卒業研究において、企業や自治体と協働して、各研究室（20研究室）で５名程度のチームをつくり、企業や地域の潜在的な課題やニーズを発見し（共感）、問題定義し、データに基づく解析と解決策の提示、プロトタイプの作成、テストを何度か繰り返し、課題を解決するといったデザイン思考を実践する取組を行うことができるよう教育課程を決定した。 ・プロトタイプの作成は、新校舎に設置したプロトタイピングルームを使用するが、設備が不足する場合は旭川市工芸センター、旭川市工業技術センターの協力を得られるよう協議済みである。 ・他大学等と取組としては、（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの参画校との連携を念頭に、旭川工業高等専門学校と連携協定を締結済みである。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
□ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
□ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
新学部における入学者選抜は、文系、理系を問わず受験しやすいように工夫する。個々の受験生において、文系、理系で得意科目が偏ることが多いが、得意科目が重点配点となるような入学者選抜方法をとり、入学後に不得意分野を補えるようにカリキュラムを構成する。上記の文理重点配点による一般入試の他、統合型選抜、地域枠を設定した学校推薦型選抜を実施し、多様な入学者の確保を行う予定である。また、旭川工業高等専門学校をはじめとする高専からの編入を検討しており、これまでに培った知識と技能をさらに成長させるとともに、バランスのとれた教育を施し、社会に役立つ人材を育成する。本学ではこれまで、地域の中高校生や、生涯学習を希望する社会人のために、出張講義を実施しているが、新学部の教員も「IT教室」「起業塾」「未来のまちづくり」などの講義を担当する。また、ファブラボを設置し、地域の小中高校生がものづくりに参加できるように整備し、ものづくり教室を開講するなど、入学意欲を訴求する。加えて、（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの連携講座として「生涯教育・研修機会の提供」「地域再生に貢献する人材の育成・生涯研修」「旭川エリア小中高等学校児童・生徒の教育・研修」があるが、新学部も積極的に参画していく。	・新学部においては、多様な学習歴を持つ受験生がいることに配慮し、幅広く評価する入学者選抜を実施した。 ・文系、理系を問わず受験しやすいよう、大学入学共通テスト指定科目による選抜方法や外国語又は数学を選択し受験する選抜方法による入学者選抜を実施した。 ・選抜方法について、既存学部と調整し、地域に配慮した推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜の方針を決定したほか、経済学部と新学部の一般選抜においては、相互に第二希望として選択できることとした。 ①学校推薦型選抜（書類審査及び面接） ②総合型選抜（書類選考、小論文及び面接） ③一般選抜（大学入学共通テスト指定科目） ④社会人、留学生、帰国生及び編入学の特別選抜 ・多様な入学者を確保し、入学前教育として数学に係る動画及び確認テストを実施したほか、入学後に不得意分野を補えるように補講等を検討している。 ・地域の小中高校生を対象としたものづくり教室を開講し、入学意欲を訴求できるよう、新学部校舎に整備する プロトタイピングルーム（ファブラボ）の活用について検討している。	

大学名	旭川市立大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	地域創造学部地域創造学科（工学関係及び経済学関係）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定		認可	開設															
	事業計画に定める定員	入学定員	人				100															
		編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-	100															
		入学者数	人	-	-	-	85															
		女子学生数	人	-	-	-	26															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-	100															
		入学者数(B)	人	-	-	-	85															
		女子学生数	人	-	-	-	26															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-	0.85															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-	100															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	-	85															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-	0.85															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	-	15															
		授業科目の単位数	単位	-	-	-	30															

大学名	旭川市立大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-	100															
		入学者数	人	-	-	-	85															
		女子学生数	人	-	-	-	23															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
		女子学生数	人	-	-	-																
		社会人学生数	人	-	-	-																
		留学生数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-	100															
		入学者数(B)	人	-	-	-	85															
		女子学生数	人	-	-	-	23															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-	0.85															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-	100															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	-	85															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-	0.85															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	-	15															
		授業科目の単位数	単位	-	-	-	30															

大学名	旭川市立大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	200	200	200	300															
		入学者数	人	205	214	221	310															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	200	200	200	300															
		入学者数(B)	人	205	214	221	310															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.07	1.11	1.03															
	収容定員等	収容定員(C)	人	800	800	800	900															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	826	842	853	960															
		編入学者数	人	7	2	0	5															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.03	1.05	1.07	1.07															

４.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	選定			開設			完成年度							
項目 / 単位																			
外部資金獲得額 / 千円	5,792	4,875	5,565	7,465	5,513	9,285	6,155												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	5,624
本事業による助成金の額(F)	千円	818,880
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	26,096

特記事項

大学の編入学定員０人とは、若干名を意味している。